

橋本 修平

## 2026年闘争においても 継続した賃上げをめざします

●電機連合・事務局長

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

2026年が、皆様とそのご家族にとって幸多い年となりますことをお祈り申し上げます。

昨年も国内外で地震や風水害等の自然災害が非常に多い年でした。また日本では、最高気温が35度を超える猛暑日が過去最多となり、熱中症による搬送者数も急増するなど、気候変動が生活面にも大きく影響を及ぼした年であったと思います。加えて、年末にかけては、熊による被害のニュースを見ない日はないなど、これまでに無かった環境変化も多く見受けられました。

国際社会における様々な分断もいまだ解決の道筋が見えず、加えて台湾情勢をめぐる日中関係の悪化も顕著となっています。

昨年の新年ご挨拶の中で、2025年の干支は、「乙巳」であり、「困難があっても紆余曲折しながら進むこと」や「再生と変化」の2つのイメージを合わせて、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表しているとの考え方もあるとご紹介しました。

国内外の政治、経済、自然災害の状況を振り返りますと「紆余曲折」はしているものの「安定」という言葉には程遠い1年であったかと思います。

今年こそはとの願いを込めて2026年の干支を見ますと「丙午」。「丙」は、「火のように明るく強い性質」を表し、「午」は、「行動力と元気の象徴」であることから、この組み

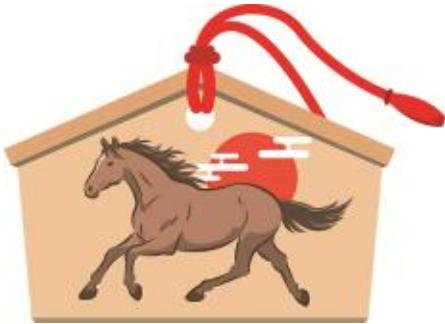
合わせである「丙午」は、「情熱と行動力で突き進む」、「燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く」とこれまた縁起の良い年とされています。昨年積み残した課題を乗り越え、良い年となることを願いたいと思います。

間もなく2026年総合労働条件改善闘争が本格的にスタートします。

取り巻く環境をみると、数年来続く物価高は2025年も継続し、この稿を書いている時点で公表されている2025年10月の消費者物価指数（総合）は3.0%のプラスでした。食料、家賃、光熱費などの基礎的支出項目についても、食料品の高騰などにより同月時点での前年同月比4.0%のプラスで推移しています。

この物価高を受け、2024年、2025年闘争により賃上げが進んだにも関わらず実質賃金はマイナス傾向が継続しており、電機連合が実施した生活実態調査などからも生活水準改善を実感するまでには至っていないことが見て取れます。

電機連合は、これまで12年連続で賃上げに取り組み、2025年闘争において多くの加盟組合が過去最高となる賃上げ額を獲得しましたが、上述した通り生活水準改善を実感するまでには道半ばであると思っています。賃金は生活の基盤であり、継続した賃上げにより組合員の皆さん的生活を守ること、そして日本全体の実質賃金を改善させ、成長と分配の好循環を持続的・安定的に回していくこ



とが必要と考えます。

中小企業の賃金水準改善には、付加価値の適正循環に向けた取組みも欠かせません。電機連合としては、継続して「価格転嫁に関する調査」を実施しており、直近では、従来の価格転嫁状況の把握に加え、金型や設計データの無償保管・管理、従業員の無償派遣、委託外の情報成果物の無償提供、一方的な原価低減率の提示などについても調査した結果、不適切な取引事例や海外取引が多い業種における課題なども確認されています。

また、2026年1月1日からは、「中小受託取引適正化法（取適法）」が施行され、支払条件の明確化（手形禁止、手数料負担禁止）や、一方的な価格決定の禁止などの措置が講じられます。それらをふまえながら、加盟組合全體への賃上げの波及に向けて、引き続き「付加価値の適正循環の取り組み」の活動を進めていきたいと考えます。

ここで話は変わりますが、最近で印象に残った書籍を紹介したいと思います。

それは、ビル・パーキンス著（翻訳：児島修）「DIE WITH ZERO 人生が豊かになりすぎる究極のルール」です。内容を簡潔に書くと、人生の最後に多くのお金を残してしまう生き方ではなく、今しかできないこと、思い出になることにお金を効果的に使うことを勧めているといったものです。

そう書くと、「老後に苦労するのではないか」、「家族にお金を残さなければいけないの

ではないか」という声も聞こえてきそうですが、そういった老後の生活についてはしっかりと計画したうえで最大限お金を使うということや、家族には必要な時期に支援する方が効果的といった考えが示されています。

私自身残すお金 자체がそんなに無いので、気にする必要は無いかもしれません、自分がやりたいことを先送りしすぎて、いざというときに身体が言うことを聞かないといったケースや、子どもたちが子育て等で必要な時に最大限の援助をした方が、結局は助かるのではということを考えると、なるほどと感じました。

最近は少し変わってきていますが、日本では、まだお金について考えることを忌避する傾向があると思います。自分の人生ですから、本当にやりたいことは何なのか、そのために必要な費用と生活や保障に必要な費用についてもっとよく考えることが大切であることをあらためて感じることができた書籍だと思います。また、我々の活動が働く人の生活不安と将来不安の払しょくにつながり、よりお金を有意義に使うことに意識が向くようしていくことも大切だと感じました。

新年早々、やや重い話となってしまい恐縮ですが、興味のある方は是非どうぞ。